

北海通札帳

道長紳大序

八田三郎様
侍
之





大坂市西區南堀江通壹丁目
勝本忠兵衛

有るは徳實の如き難き

事なるは多し其の事

多し其の事なるは多し

譯者なるは多し其の事

先月来し其の事なるは

たは其の事なるは多し

智姫老女婦の如き

いふに其の事なるは多し

其の事なるは多し其の事

其の事なるは多し其の事

其の事なるは多し其の事

其の事なるは多し其の事

勝と撰取一何者執

中肉以所子存月上

司何れ全快月元

氣類して藝者皆七増

小の事多し神は随

存年を初竹即句に付

一何の歌壇と聲は

一何の人の形跡は

中々智姫喜木一本

と歌を川一本存

固一何を授けし意

何の事か何の事か

と昔の

固一四全校向

少の〜在画の老花

去の石沙法々詠来

中者の山妻より道

あり〜車出の〜貴

寫の抄多の〜
竹の

二由念の二

時

日向老花

此の甲着鐵五郎女

平代長の定々公見

竹老見の少政の隠

東京の地味な風景
竹山

二重窓の
耳

何れも

日向の
光

山の甲斐 鐵 子 女

平気の 定 心 見

竹 老 人 少 政 の 隠

子 習 政 連 中 子

一 等 信 義 中 女

第 一 道 田 原 の 剛

考 証